

Title	松村友視教授略年譜・主要業績
Sub Title	Biographical resume & list of publication of Professor Tomomi Matsumura
Author	
Publisher	慶應義塾大学藝文学会
Publication year	2015
Jtitle	藝文研究 (The geibun-kenkyu : journal of arts and letters). Vol.109, No.1 (2015. 12) ,p.(xxi)- xxxi
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	藤原茂樹教授 松村友視教授退任記念論文集
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00072643-01090001--006

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

松村友視教授

略年譜・主要業績

略年譜

- 一九五一年三月
静岡県焼津市に生まれる
- 一九六六年四月
静岡県立静岡高等学校入学
- 一九六九年三月
同校卒業
- 一九六九年四月
慶應義塾大学経済学部入学
- 一九七四年三月
同学部卒業
- 一九七四年四月
慶應義塾大学文学研究科国文学専攻修士課程入学
- 一九七七年四月～八二年七月
戸板女子高等学校非常勤講師
- 一九七八年三月
慶應義塾大学文学研究科修士課程修了
- 一九七八年四月
慶應義塾大学文学研究科国文学専攻博士課程入学
- 一九八二年三月
同課程単位取得退学
- 一九八二年四月～八五年三月
慶應義塾大学文学部非常勤講師
- 一九八四年四月～八六年三月
日本近代文学会運営委員
- 一九八四年四月
泉鏡花研究会幹事、現在に至る
- 一九八五年四月
慶應義塾大学文学部助手就任
- 一九八八年四月
慶應義塾大学文学部助教就任
- 一九八九年四月～九二年三月
大妻女子大学文学部非常勤講師

- 一九八九年四月～二〇一六年三月 日本近代文学会評議員
- 一九九〇年四月～九二年三月 日本近代文学会編集委員
- 一九九〇年四月～九六年三月 三田文学会理事
- 一九九一年四月～九二年三月 学習院大学文学部非常勤講師
- 一九九二年四月～一九九三年三月 ハーバード大学イエンチン研究所訪問研究員
- 一九九五年四月～九七年三月 東京大学文学部非常勤講師
- 一九九六年四月～二〇〇〇年三月 三田文学会常任理事
- 一九九七年九月 徳島大学文学部集中講義
- 一九九八年四月 慶應義塾大学文学部教授就任
- 一九九八年四月～二〇〇〇年三月 日本近代文学会編集委員
- 一九九九年九月 山口大学文学部集中講義
- 二〇〇〇年四月 慶應義塾大学文学研究科委員就任
- 二〇〇〇年四月～〇一年三月 早稲田大学教育学部非常勤講師
- 二〇〇〇年四月 日本近代文学館評議員、現在に至る
- 二〇〇〇年四月 三田文学会理事、現在に至る
- 二〇〇一年九月 青山学院大学文学部集中講義
- 二〇〇二年四月～〇三年三月 東京大学文学部非常勤講師
- 二〇〇五年四月～〇六年三月 立教大学文学部・同大学院非常勤講師
- 二〇〇六年四月～〇八年三月 日本近代文学会編集委員長（兼理事）
- 二〇〇八年四月～一〇年三月 日本近代文学会理事

二〇〇九年四月～一〇年三月

東京大学文学部非常勤講師

二〇一一年四月～一二年三月

上智大学大学院文学研究科非常勤講師

二〇一一年八月

熊本県立大学大学院文学研究科集中講義

二〇一二年四月

慶應義塾大学文学研究科教授就任

二〇一二年四月～一四年三月

日本近代文学会理事

二〇一二年四月～八月

上智大学大学院文学研究科非常勤講師

二〇一二年九月～一三年三月

上智大学文学部非常勤講師

二〇一四年四月～二〇一六年三月

日本近代文学会代表理事

二〇一六年三月

慶應義塾大学退職

主要業績

著書

- 一九八五 2 森鷗外・於母影研究（慶應義塾大学国文学論叢新集7） 共編著 桜楓社
一九八六 11 自筆稿本義血俠血 別冊解説 岩波書店
一九八八 12 三田文学の系譜 共編著 三弥井書店
一九九三 12 紅葉全集第七卷 校訂・解題 岩波書店
一九九五 3 紅葉全集別巻 編集・解題 岩波書店
一九九五 3 スタイルの文学史 共編著 東京堂出版
一九九六 9 作家の随想3 泉鏡花 編著 日本図書センター
一九九七 4 作家の自伝41 泉鏡花 編著 日本図書センター
一九九八 4（二〇〇一）9 定本佐藤春夫全集（全38巻） 共編・解題 臨川書店
二〇〇一 12 大正文学全集 第9巻 編著 ゆまに書房
二〇〇三 7 尾崎紅葉集（新日本古典文学大系明治篇19） 注釈・共著 岩波書店
二〇〇七 3 近代的心性における字知と想像力 共編著 慶應義塾大学出版会
二〇一〇 3 改造社出版関係資料（DVD） 共編著 雄松堂出版
二〇一三 11 化鳥・三尺角他六篇 編集・注釈・解説 岩波文庫

論文

- 一九七六 3 泉鏡花自筆原稿解析 岩波書店
- 一九七八 2 泉鏡花・戯曲の研究―『沈鐘』を中心として― 慶應義塾大学文学研究科修士論文
- 一九七九 2 鏡花戯曲における『沈鐘』の影響 『藝文研究』第38号 慶應義塾大学藝文学会
- 一九八一 7 悪の世界―泉鏡花の(内なる風景)― 『国文学解釈と鑑賞』第46巻第7号 至文堂
- 一九八三 6 『婦系図』の背景 『文学』第51巻第6号 岩波書店
- ※一九九六・3 『日本文学研究大成 泉鏡花』(国書刊行会)に再録
- 一九八四 10 「義血俠血」の変容―紅葉改作をめぐって― 『日本近代文学』第31集 日本近代文学会
- 一九八五 6 歌行燈―深層への階梯― 『国文学』第30巻第7号 学燈社
- 一九八五 10 鏡花初期作品の執筆時期について―『白鬼女物語』を中心に― 『三田国文』第4号 三田国文の会
- 一九八五 11 嵯峨の屋御室における浪漫主義の生成 『文学』第53巻第11号 岩波書店
- ※一九八六・12 『日本文学研究資料新集11 近代文学の成立』(有精堂)に再録
- 一九八六 6 前登志夫―存在の歌としての短歌― 『国文学解釈と鑑賞』第51巻第3号 至文堂
- 一九八七 3 鏡花文学の基本構造 『文学』第55巻第3号 岩波書店
- ※一九九一・1 『日本文学研究資料新集12 泉鏡花』(有精堂)に再録
- 一九八七 11 「春昼」の世界 『論集泉鏡花』 有精堂
- 一九八八 3 内田百閒「冥土」―暗い土手の幻想― 『国文学』第33巻第4号 学燈社

- 一九八八 5 近代文学と古典文学——『近代小説』と『物語』——
 ※藤井貞和・亀井秀雄とのシンポジウムを再録
 『日本近代文学』第38集 日本近代文学会
- 一九八八 8 陰画としての〈江戸〉——昭和一〇年代の大衆時代小説——
 『講座昭和文学史』第2巻混迷と模索 有精堂
- 一九八九 3 小山勝清『民俗主義文学論』(緒論)——翻刻・解題——
 『藝文研究』第55号 慶應義塾大学藝文学会
- 一九八九 5 融解するコスモロジー——鏡花文学の認識風景——
 『三田文学』第68巻第17号 三田文学会
- 一九八九 7 泉鏡花「高野聖」——隣接諸学の援用——
 『国文学』第34巻第8号 学燈社
- 一九八九 11 「白鷺」——語りの構造——
 『国文学』解釈と鑑賞』第54巻第11号 至文堂
- 一九九〇 10 明治二十年代末の鏡花文学
 『国語と国文学』第67巻第10号 東京大学国語国文学会
- 一九九〇 11 鷗外・敏・荷風——荷風招聘をめぐる経緯——
 『三田の文人』 丸善
- 一九九一 1 山川方夫「愛のごとく」——愛という名の日常——
 『国文学』第36巻第1号 学燈社
- 一九九一 3 田山花袋「重右衛門の最後」論
 『近代文芸新攷』 新典社
- 一九九一 5 逆行する時間——鏡花文学の認識風景(二)——
 『三田文学』第70巻第25号 三田文学会
- 一九九一 8 時間の物語
 『国文学』第36巻第9号 学燈社
- 一九九二 4 合わせ鏡としてのテクスト——中上健次『奇蹟』をめぐる——
 『文学』季刊第3巻第2号 岩波書店
- 一九九二 6 〈中央〉と〈地方〉のはざま
 『日本文学史を読む』v 近代1 有精堂
- 一九九三 10 主題としての〈未完〉——透谷『蓬萊曲』をめぐる——
 『文学』季刊第4巻第4号 岩波書店
- 一九九五 9 知と神話との距離——泉鏡花「湯島詣」をめぐる——
 『国文学』第40巻第11号 学燈社
- 一九九五 11 「水月」への意志——泉鏡花の描く夜——
 『日本の美学』第23号 ぺりかん社
- 一九九六 2 詩歌と学問——柳田国男と折口信夫——
 『岩波講座 日本文学史』12 岩波書店

- 一九九七 1 折口信夫と泉鏡花 『国文学』第42巻第1号 学燈社
- 一九九七 5～二〇一三 6 木下柰太郎『食後の唄』注釈作品論1～8（共著）
成蹊大学一般報告 第29巻～47巻 成蹊大学
『藝文研究』第72号 慶應義塾大学藝文学会
- 一九九七 6 シンポジウム「エキゾティシズム—帝国と文学—」
※富山太佳夫・朝吹亮二とのシンポジウムを再録
『ユリイカ』第29巻第10号 青土社
- 一九九七 7 〈知〉という名の境界
『環境学事始め』 慶應義塾大学出版会
- 一九九七 7 〈もうひとつの知〉のゆくえ—鏡花文学を視座として—
『論集泉鏡花』 和泉書院
- 一九九九 7 鏡花文学の中の〈知〉
『藝文研究』第77号 慶應義塾大学藝文学会
- 一九九九 12 「帰省」論—創出されるユートピア—
『自然と文学 環境論の視座から』 慶應義塾大学出版会
- 二〇〇一 10 人は豚になれるか—賢治童話の認識論
- 二〇〇二 6 「戦闘的啓蒙」の論理—鷗外初期言論の構造と背景—
『国語と国文学』第79巻第6号 東京大学国語国文学会
- 二〇〇四 6 シュヴェーグラー『西洋哲学史』への森鷗外自筆書き込み—翻刻および翻訳（共著）
『藝文研究』第86号 慶應義塾大学藝文学会
- 二〇〇七 3 初期鷗外のシエリング受容—シュヴェーグラー『西洋哲学史』への書き込みを中心に—
『文学』第8巻第2号 岩波書店
- 二〇一〇 3 初期鷗外における認識論的総合への意志 『大妻女子大学草稿テキスト研究所研究年報』第2・3号
大妻女子大学草稿テキスト研究所

二〇一一 12 北村透谷の詩人觀形成とエマーソン受容—その思想的系譜をめぐって—

二〇一三 1 「利他」という思想—鷗外文学における *Seel* のゆくえ— 『藝文研究』第101号第一分冊 慶應義塾大学藝文学会
『文学』第14巻第1号 岩波書店

口頭発表・講演

- 一九七八 6 鏡花戯曲における「沈鐘」の影響 慶應義塾大学国文学研究会
一九八三 12 鏡花初期作品における紅葉の添削について 日本近代文学会例会
一九八四 7 鏡花初期自筆原稿に関する二、三の問題点 泉鏡花研究会大会
一九八五 6 鏡花文学の基本構造 慶應義塾大学国文学研究会
一九八七 10 シンポジウム「近代小説と物語」 日本近代文学会大会
一九八九 12 『三田文学』創刊号を読む 慶應義塾大学藝文学会シンポジウム
一九九三 11 北村透谷のエマーソン受容をめぐって 慶應義塾大学国文学研究会
一九九四 5 泉鏡花における演劇と小説のあいだ 日本近代文学会大会
一九九六 4 近代の中の鏡花文学 AAS国際会議シンポジウム（ハワイ）
一九九六 12 シンポジウム「エキゾテシズム—帝国と文学—」 慶應義塾大学藝文学会
一九九七 7 鏡花文学の中の〈知〉と〈無知〉 泉鏡花研究会大会
二〇〇二 11 近代日本文学における東西思想の交流をめぐって 韓国外国語大学校（ソウル）
二〇〇五 11 初期鷗外とドイツ観念論 慶應義塾大学国文学研究会
二〇一〇 3 初期鷗外における認識論的総合への意志 大妻女子大学草稿テキスト研究所

二〇一七	初期鷗外の認識風景
二〇一三 7	「わたくしという現象は……」
二〇一三 11	鏡花を読むよるこび
	※朝吹真理子と対談
二〇一五 10	鷗外文学における〈総合〉への模索
二〇一五 11	鷗外文学における <i>Scale</i> のゆくへ

上智大学国文学会

慶應義塾大学文学部公開講座

神奈川近代文学館

日本大学文理学部大学院特別講義

慶應義塾大学国文学研究会